

# 目次

目次	1
1.1 ご使用前の感謝状	3
1.2 本モデルの機能	4
1.3 安全上の情報	4
<b>第2章 本マザーボードの紹介</b>	<b>5</b>
2.1 マザーボードの外見は？	5
2.2 仕様	6
2.3 構成図	7
<b>第3章 ハードウェア・インストレーション</b>	<b>8</b>
3.1 クイック・インストレーションの手順	8
3.2 インストレーションのために知っておくべきこと	9
CPUをインストールする	9
CPUファンをインストールする	10
CPUとシステムファンを接続する	11
メモリーモジュールをインストールする	12
デュアルチャネルのパフォーマンスを最大にする	13
IDEとフロッピーケーブルを接続する	14
前面パネルケーブルを接続する	15
ATX電源ケーブルを接続する	16
3.3 参考としての他のインストール	17
CPU電圧と周波数を設定する	17
シリアルATAを接続する	18
ハードディスクの設定を調整する	19
PCI Express x 16グラフィックススロットを接続する	21
PCI Express x 1スロットを接続する	22
IrDAを接続する	23
10/100/1000Mbps LANをサポート(i915Gm-IEのみ1000Mbpsをサポート)	24

USB2.0を接続する .....	25
スーパー7.1チャンネルオーディオ効果 .....	26
前面オーディオを接続する .....	27
ゲームポートを接続する .....	28
COM2を接続する .....	29
CD_INを接続する .....	30
Case Openを接続する .....	31
色分けされた後部パネル .....	32
LED表示 .....	33
3.4 ジャンパー設定 .....	34
<b>第4章 特別な機能とユーティリティー .....</b>	<b>35</b>
SilentTek – ノイズよさらば! .....	35
他の便利な機能 .....	38
<b>第5章 BIOSを設定する .....</b>	<b>39</b>
紹    介 .....	39
Phoenix-Award™ BIOS設定プログラムの使い方 .....	40
BIOS設定への入り方 .....	40
Windows環境でのBIOSアップグレード .....	41
Vivid BIOSテクノロジー .....	43
<b>第6章 ドライバーをインストールする .....</b>	<b>44</b>
6.1 ドライバーをインストールする .....	45
6.2 ユーティリティーをインストールする .....	46
<b>第7章 トラブルシューティング .....</b>	<b>47</b>
<b>第8章 テクニカルサポート .....</b>	<b>48</b>
モデル名とBIOSバージョン .....	49
マザーボードを登録する .....	49
テクニカルサポート .....	50



## 1.1 ご使用前の感謝状

まず初めに、AOpen製品をご購入くださり厚くお礼を申し上げます。本マザーボードは皆様のあらゆるニーズに合うよう、私たちの持つ優秀な設計能力を駆使し、品質のために尽力を傾け設計されました。

このマニュアルでは本マザーボードのインストールの仕方を紹介しています。今後の参考として保管してください。印刷されたマニュアルをなくされた場合は、最新のファイルをダウンロードするために私共のウェブサイト<http://www.aopen.com>にアクセスしてください。

それでは、このユーザーにとって使い勝手のよいマニュアルとAOpenが提供するパワフルな機能のすべてを個人的に経験なさるようお招きいたします。

AdobeとAcrobatのロゴはAdobe Systems Incorporatedの登録商標です。

AMD, AthlonそしてDuronのロゴはAdvanced Micro Devices, Inc.の登録商標です。

Intel, Intel Celeron, Pentium II, IIIそしてPentium 4のロゴはIntel Corporationの登録商標です。

nVidiaのロゴはnVidia Corporationの登録商標です。

Microsoft, Windowsのロゴはアメリカ及び他の国々におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

本マニュアルで言及されている製品のタイトルや商標は解説上の便宜を目的としており、それぞれの企業によって所有されています。

使用上の標準やそれに関連する情報に関わる変更について提供できないことを遺憾に思います。AOpenは本マニュアルの内容について変更や修正を加える権利を留保しています。商品に関わる点も含むいかなる誤記について、AOpenは保証や義務を負うものではありません。

本文書は会社を保護し全ての権利を留保するために著作権法に基づいています。

AOpenからの正式な文書での許可がない限り、どのような状況であれ、本冊子をいかなる種類に複製することも、データベースや媒体に取り込むことも許されていません。

1996-2004 Copyrights, AOpen Ltd. 版權所有。

## 1.2 本モデルの機能

本マザーボードの便利な情報や知っておくべき特定の状況を把握するために、以下のアイコンがしばしば出てきます：



重要

組み立ての過程で知っておくべき知識や役立つヒントを含んでいます。



警告 / 注意

このマークを見たら注意して下さい。組み立て中によく起きるミスや注意すべき点を強調しています。



ヒント

このヒントはインストールをスムーズに行うために役に立つ情報を教えてくれます。

## 1.3 安全上の情報



コンポーネントを扱う前に、リストストラップを着用しユニットの金属部分に触れてください。別の方法としては、アースされた物体に触れるか、その金属面に触れてください。



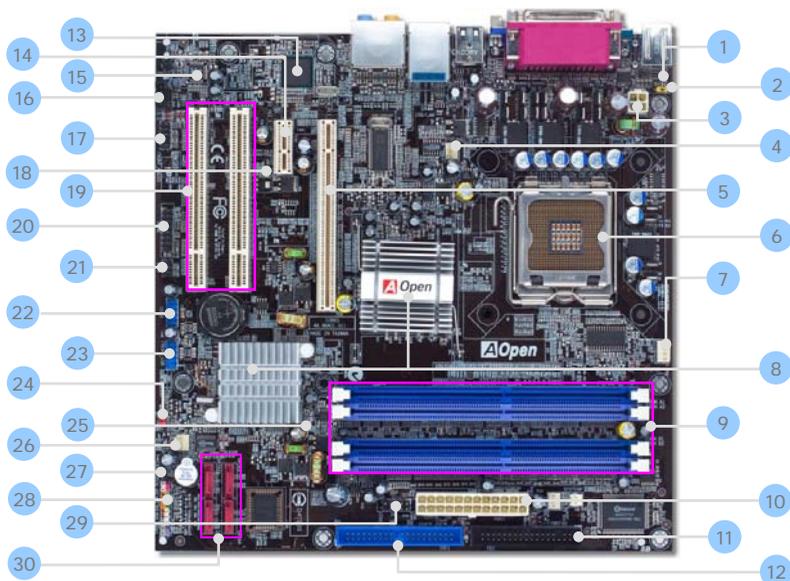
ジャンパー設定の前には常に電源を抜いてください。



マザーボード上のコンポーネントをインストールしたり外したりする前には、最初に電源を外し、マザーボードや他のコンポーネントにダメージを与えないようにして下さい。

## 第2章 本マザーボードの紹介

### 2.1 マザーボードの外見は？



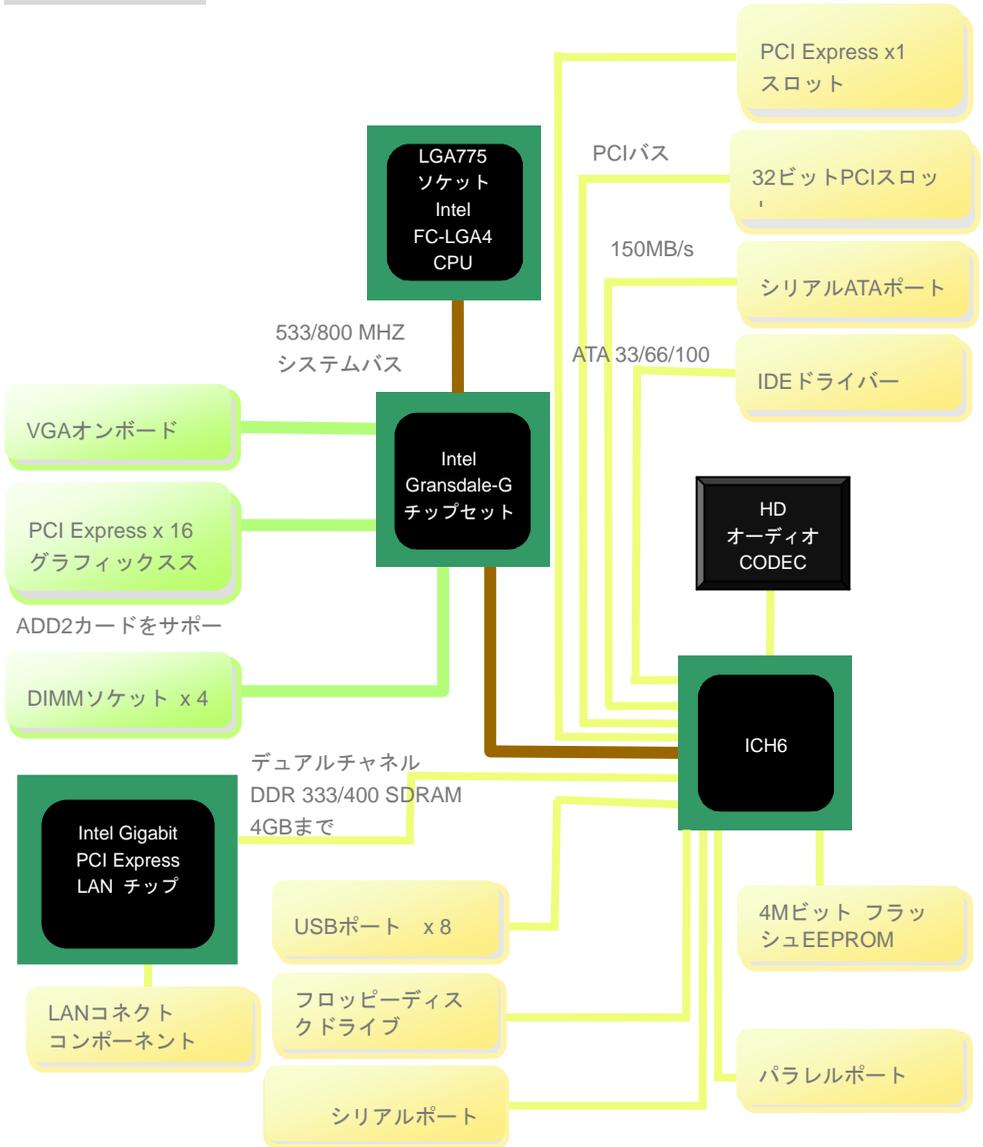
1. リセット可能フューズ
2. JP28 PS2 キーボード/マウス起動ジャンパー
3. 4-pin 12V ATX電源コネクタ
4. SYSFAN1コネクタ
5. PCI Express x 16グラフィックスロット
6. Intel FC-LGA4 CPU をサポートする LGA775 COUソケット
7. CPUFANコネクタ
8. Intel Grantsdale-G/ICH6
9. 184ピンDIMMs x 4
10. ATX電源コネクタ
11. FDDコネクタ
12. IDEコネクタ
13. Intel Gigabit LAN Chip (i915Gm-IE)  
Intel 10/100Mbps LAN Chip (i915Gm-l)
14. PCI Express x 1スロット
15. オンボードHDオーディオCodec
16. CD-INコネクタ
17. 面オーディオコネクタ
18. スタンバイLED
19. 32-bit PCI Expression Slots x 2
20. ゲームポートコネクタ
21. IrDAコネクタ
22. USB2.0コネクタ
23. 前面USB2.0コネクタ
24. JP14 CMOSデータクリアジャンパー
25. BOOT LED
26. SYSFAN2コネクタ
27. Case Openコネクタ
28. 前面パネルコネクタ
29. COM2コネクタ
30. シリアルATAポート x 4

## 2.2 仕様

お手持ちのマザーボードの主要な機能です。

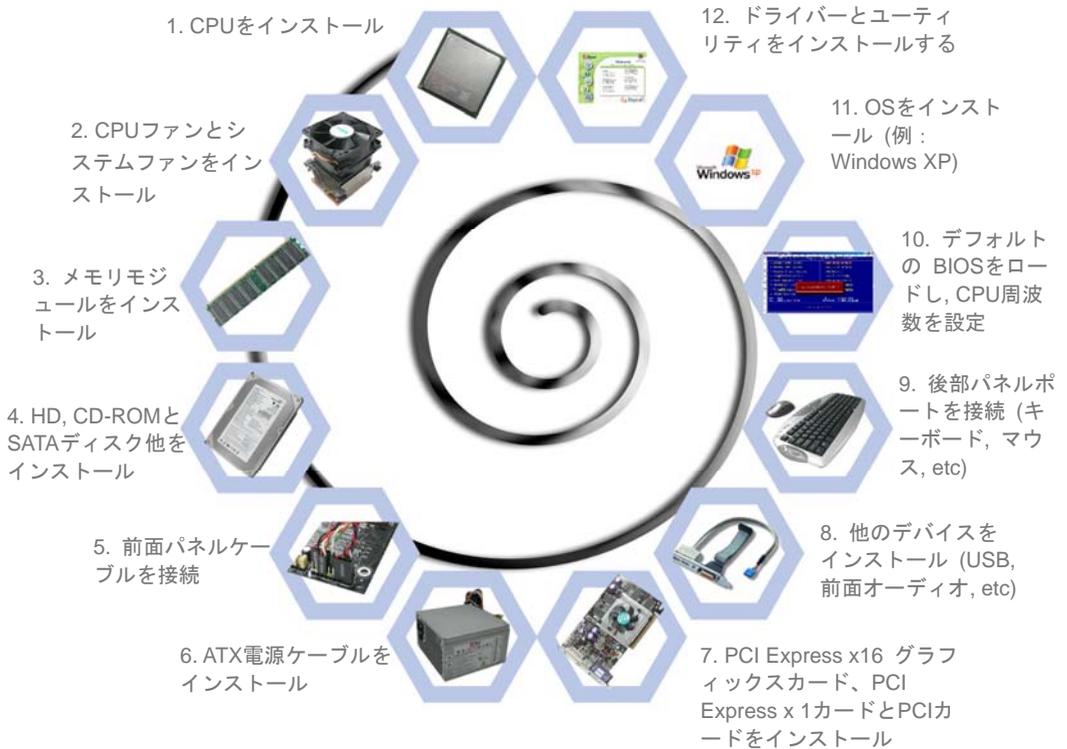
モデル	i915Gm-IE	i915Gm-I
CPU	Intel FC-LGA4 CPU Socket T 800MHz	Intel FC-LGA4 CPU Socket T 800MHz
チップセット	Intel Grantsdale-G/ICH6	Intel Grantsdale-G/ICH6
メインメモリー	デュアルチャネルモードDDR DDR 333/400 DDR DIMM x 4 DIMMタイプ : 128/256/512MB & 1GB 最大メモリー : 4GB	デュアルチャネルモード DDR DDR 333/400 DDR DIMM x 4 DIMM タイプ : 128/256/512MB & 1GB 最大メモリー : 4GB
グラフィックス	チップセットに一体型のVGAエンジン PCI Express x 16グラフィックス・スロット 、ADD2 カードをサポート	チップセットに一体型のVGAエンジン PCI Express x 16グラフィックス・スロット 、ADD2 カードをサポート
IDE	一体型のATA100とシリアルATAコントローラー 最大ディスク : 144,000,000GB [48 bits LBA Spec.による]	一体型のATA100とシリアルATAコントローラー 最大ディスク : 144,000,000GB [48 bits LBA Spec.による]
LAN	Intel Gigabit PCI Express LAN Chip	Integrated Intel 10/100Mbps LAN Chip
サウンド	オンボードHD オーディオCodec Dolby Digital System, 7.1チャンネル以上をサポート	オンボードHD オーディオCodec Dolby Digital System, 7.1チャンネル以上をサポート
USB	チップセットに一体型, USB 2.0 x 8	チップセットに一体型, USB 2.0 x 8
スロット	PCI Express x 1 スロット x 1 PCI Express x 16 グラフィックス・スロット x 1 PCI スロット x 2	PCI Express x 1 スロット x 1 PCI Express x 16 グラフィックス・スロット x 1 PCI スロット x 2
後部パネル I/O	PS/2キーボード x 1, PS/2マウス x 1 USBポート x 4, LANポート x 1, VGAポート x 1, COMポート x 1, プリンターポート x 1 スピーカー出力 x 1, ライン入力 x 1, マイク入力 x 1 側面SUR x 1, 後部SUR x 1 センター/サブウーハー x 1	PS/2キーボード x 1, PS/2マウス x 1 USBポート x 4, LANポート x 1, VGAポート x 1, COMポート x 1, プリンターポート x 1 スピーカー出力 x 1, ライン入力 x 1, マイク入力 x 1 側面SUR x 1, 後部SUR x 1 センター/サブウーハー x 1
オンボードコネクタ	フロッピードライブコネクタ x 1 IDEチャネル : ATA100 x 1 シリアルATAチャネル x 4 前面パネル x 1 前面オーディオ x 1 CPUファン x 1, システムファン x 1, ケースファン x 1 電源ファン x 1 電源温度コネクタ x 1 Case Openコネクタ x 1 CD入力 x 1, IrDA x 1, COM2 x 1, USB2.0コネクタ x 2	フロッピードライブコネクタ x 1 IDEチャネル : ATA100 x 1 シリアルATAチャネル x 4 前面パネル x 1 前面オーディオ x 1 CPUファン x 1, システムファン x 1, ケースファン x 1 電源ファン x 1 電源温度コネクタ x 1 Case Openコネクタ x 1 CD入力 x 1, IrDA x 1, COM2 x 1, USB2.0コネクタ x 2
BIOS ボードサイズ	Award PnP 4MbフラッシュROM BIOS 244 mm x 244 mm	Award PnP 4MbフラッシュROM BIOS 244 mm x 244 mm

## 2.3 構成図



# 第3章 ハードウェア・インストール

## 3.1 クイック・インストールの手順



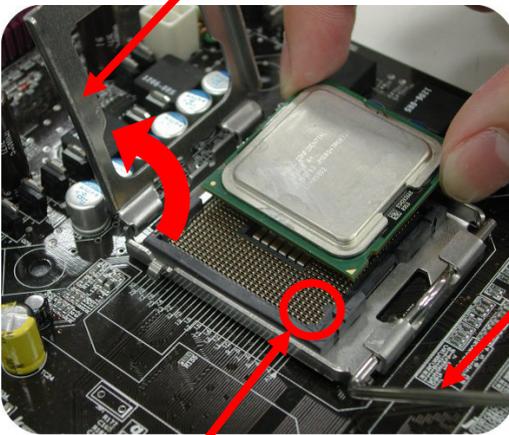
## 3.2 インストレーションのために知っておくべきこと

### CPUをインストールする

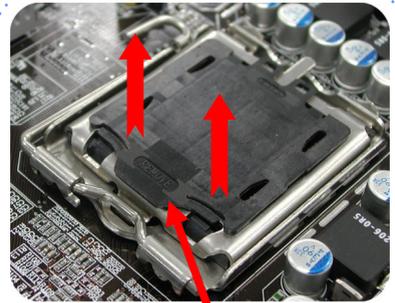
このソケットはIntel が開発した最新のCPU パッケージであるFC-LGA4 CPUをサポートしています。他の形状のCPUパッケージは納まりません。

1. CPUソケットレバーを引き、プレートを上げます。
2. CPUソケットプレートからプラスチックキャップを外す。
3. ソケットのピン1を確かめ、CPU上部にある金色の矢印を探す。ピン1と金色の矢印を合わせる。CPUをソケットに差し込む。
4. CPUソケットプレートとレバーを押し込み、CPUのインストールは完了。

CPUソケットプレート

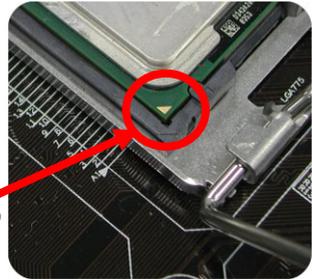


ソケットピン1



プラスチックキャップ

CPUソケット



金色の矢印



**警告：** CPUソケットのピン1とCPUの金色の矢印が合わない場合は、CPUが破損するかもしれません。CPUをインストールするときはCPUソケットピンに触れないで下さい。



**重要：** Prescott CPUから発生する過熱を避けるため、thermal paste（サーマルペースト）を適切に使用するようにIntelから強く勧められています。

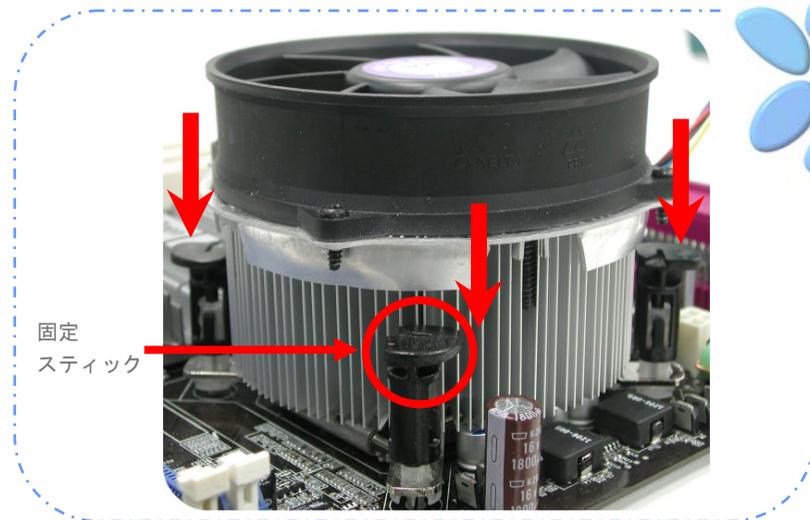


## CPUファンをインストールする

1. CPUソケット上の4つの取り付け穴に、正確に4本のスティックでCPUファンを優しく押し込んでください。



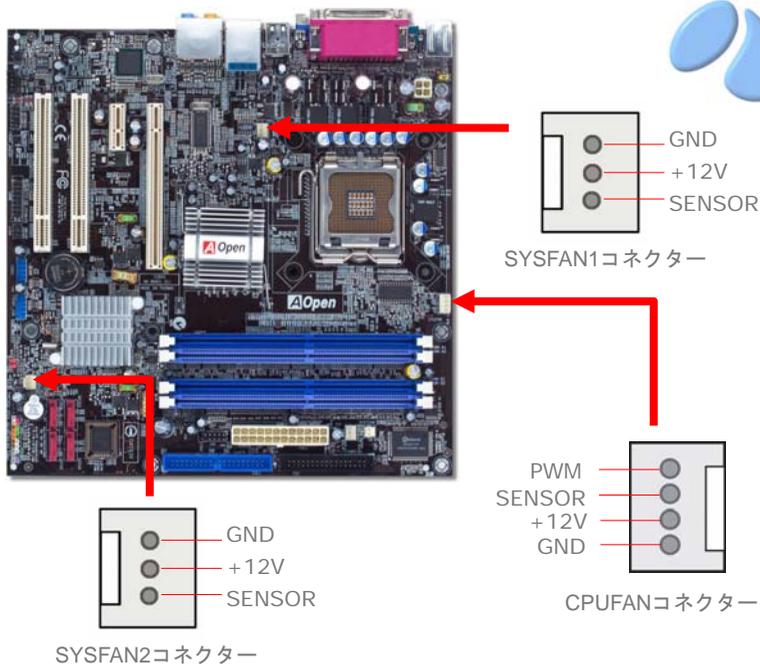
2. 一つずつ穴に4つの固定スティックを押し込んでください。スティックが穴にしっかりと固定されていることを確認してください。



**重要** :上  
の写真のものは購入されたものと形状が異なるかもしれません。

## CPUとシステムファンを接続する

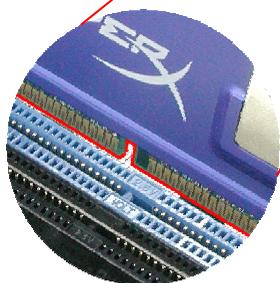
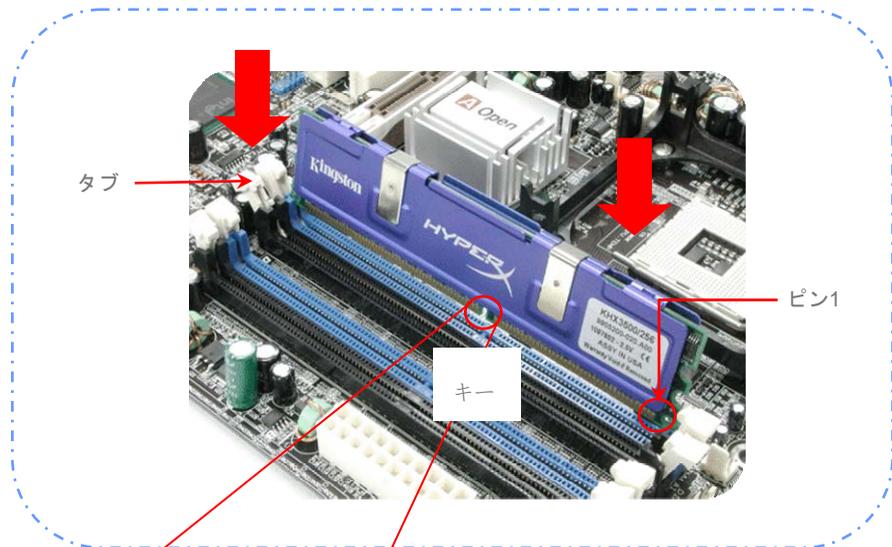
CPUファンケーブルを4ピンCPUFANコネクタに接続します。もしケースにファンがあれば、SYSFAN1かSYSFAN2コネクタに接続できます。



**重要:** CPUファンの中にはセンサーピンのないものがあるので、その場合はファンのモニターをサポートできません。

## メモリーモジュールをインストールする

DIMMスロットは分かりやすいようにネイビーブルーに設計されています。モジュールを両手でまっすぐに DIMMスロットに挿入し、DIMMモジュールがしっかりと固定されるまで押し込んでください。



**重要：** DIMMスロットのタブはDIMMがスロットの底部に接触したときに、DIMMを固定するために持ち上がります。

## デュアルチャネルのパフォーマンスを最大にする

デュアルチャネルの最高のパフォーマンスを得るために、DIMMの構成は以下の条件を満たしていなければなりません。

それぞれのチャネルに適合するDIMM構成

- 同一密度 (128MB~1GB)

同一密度のメモリーモジュールをチャネル 1 (DIMM A1 & DIMM A2) とチャネル 2 に差し込む限り、デュアルチャネルモードが有効になります。

DIMM A1 + DIMM A2 = DIMM B1 + DIMM B2

例：1GBメモリーモジュールをDIMM A1とDIMM A2に挿入すると、デュアルチャネルモードはDIMM B1 + DIMM B2 = 1GBのとき、有効になります。

- 同一DRAMバス幅 (x8またはx16)
- 片面、両面のどちらか



**重要：**異なるチップのメモリーモジュールを使用するとシステム不安定の原因になります。

デュアルチャネルモードが上手く有効になると、POST画面の間に、“Dual Channel Mode Enabled”が画面に表示されます。

```
Phoenix - AwardBIOS v6.00PG, An Energy Star Ally
Copyright (C) 2003, Phoenix Technologies, LTD
Feb.02.2004 AOpen Inc.

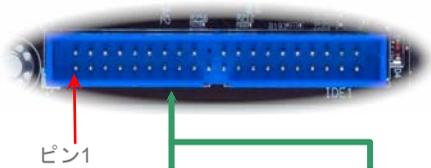
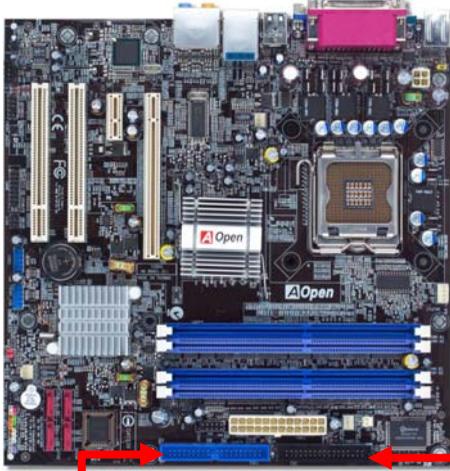
Main Processor : Intel Pentium(R) 4 2.80GHz(200x14.0)
Memory Testing : 1048576K OK
CPU Brand Name : Intel(R) Pentium(R) 4 CPU 2.80GHz

Hyper-Threading Technology Enabled
Dual Channel Mode Enabled
CPU 200MHz / Setting Default / Setting
DRAM 400MHz / 400MHz AUTO / AUTO
AGP 66.67MHz / 66.67MHz 1.50 V / 1.50 V
PCI 33.33MHz / 33.33MHz 3.30 V / 3.30 V
IDE Channel 0 Master : WDC WD300AB-00CDB0 22.04A22
IDE Channel 0 Slave : None
IDE Channel 1 Master : None
IDE Channel 1 Slave : None

AOpen http://www.aopen.com.tw
intel inside pentium 4
Press DEL to enter SETUP
02/02/2004-Springdale-G-6A79AAB9C-00
```

## IDEとフロッピーケーブルを接続する

34ピンのフロッピーケーブルと40ピンか80ワイヤーIDEケーブルをフロッピーコネクターとIDEコネクターに接続します。ピン1の向きに注意してください。向きを間違えるとシステム損傷の原因になります。



ピン1

プライマリー  
スレーブ (2)

プライマリー  
マスター (1)

ATA 66/100 IDEコネクター



FDDコネクター

ピン1

## 前面パネルケーブルを接続する

電源LED、スピーカー、リセットスイッチコネクタを対応するピンに取り付けます。BIOS設定の“サスペンドモード”の項目を有効にすると、システムが“サスペンドモード”になっている間、ACPI & Power LEDが点滅します。

ATXケースの電源スイッチケーブルを確認してください。ケースの前面パネルの2ピンのメスのコネクタです。このコネクタをSPWRと記されたソフトパワースイッチコネクタに接続します。

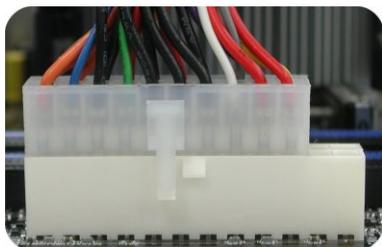
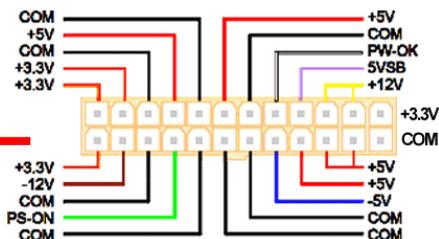
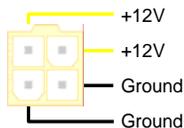
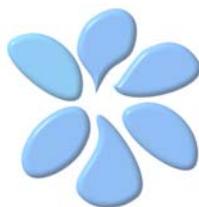


	1		
NC	○	○	Power Switch
NC	○	○	GND
+5V	○	○	Power LED-
HDD LED	○	○	GND
HDD LED	○	○	NC
+5V	○	○	NC
+5V	○	○	GND
GND	○	○	GND
NC	○	○	RESET
SPEAKER	○	○	GND

Front Panel Connector

## ATX電源ケーブルを接続する

本マザーボードには下に示されているように、24ピンのATX電源コネクタと4ピンの12V ATX電源コネクタがあります。正しい向きで差し込んでください。24ピンコネクタを差し込む前に4ピンコネクタを差し込んでおかれることを強くお勧めします。



**重要：** 24ピンのATX電源ケーブルがなければ、20ピンのATX電源ケーブルを左の写真に示しているように左端から接続してください。

## 3.3 参考としての他のインストール

### CPU電圧と周波数を設定する

#### CPUのコア電圧を設定する

本マザーボードは、電源投入時と0.8375Vから1.6Vの帯域のCPU電圧を自動的に検知するVoltage ID (VID)機能をサポートしています。必ずしもCPUコア電圧を設定する必要はありません。

#### CPUの周波数を設定する

本マザーボードはCPUのジャンパー不要設計のため、BIOS 中の1MHz Stepping CPUオーバークロックを通してCPU周波数を設定できます。 **CPUコア周波数 = CPU FSBクロック x CPU 比率**。しかし、現在販売されている全てのCPUは "Fixed Multiplier (固定乗数)" に属しています。これはユーザーがCPU 比率を調整することはできず、オーバークロックのためにはCPU FSBクロックの変更しかできないという意味です。

#### BIOS設定 > 周波数 / 電圧制御 > CPUスピード設定

**(ユーザーは自分のリスクでオーバークロックを行ってください!!)**

CPU比率	8x, 10x... 24x, 25x, 26x, 27x, 28x
CPU FSB (手動での調整)	FSB = 100MHz-400MHz by 1MHz Stepping CPUオーバークロック

プロセッサ番号	プロセッサ周波数	FSB	CPU比率	キャッシュ
<b>5シリーズ</b>				
580	4.00G	800MHZ	20x	1MB L2
570	3.80G	800MHZ	19x	1MB L2
560	3.60G	800MHZ	18x	1MB L2
550	3.40G	800MHZ	17x	1MB L2
540	3.20G	800MHZ	16x	1MB L2
530	3.00G	800MHZ	15x	1MB L2
520	2.80G	800MHZ	14x	1MB L2
<b>3シリーズ</b>				
350	3.20G	533MHZ	24x	256K L2
345	3.06G	533MHZ	23x	256K L2
340	2.93G	533MHZ	22x	256K L2
335	2.80G	533MHZ	21x	256K L2

**重要：** CPUのスピードは急速に変化するため、このインストールガイドを手にする時点では最速のCPUかもしれません。この表は参考のためのものです。詳細な情報については販売店と連絡を取ってください。

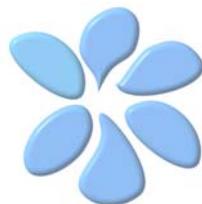
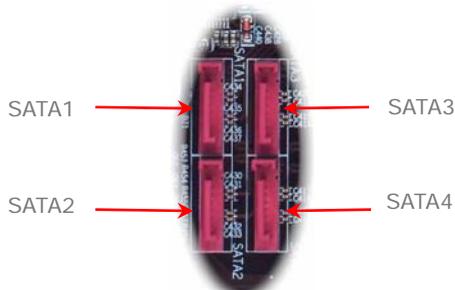
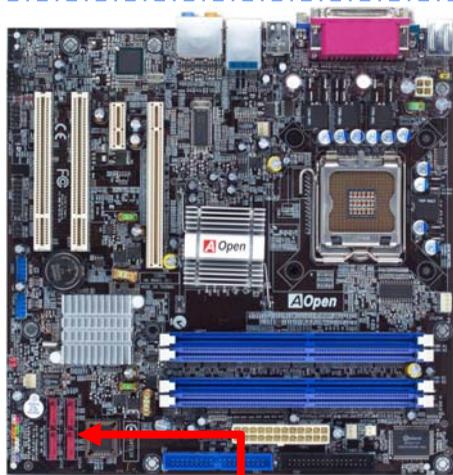
**重要：**  
CPUの中には、センサーピンのないものがあるの  
で、その場合はファンのモ  
ニターをサポートできません。



**警告：** Intel Grantsdale-G chipsetは最大800MHz (200MHz\*4)のシステムバスまでサポートします。クロック設定を高くするとシステムに深刻な損傷を起こすかもしれません。

## シリアルATAを接続する

シリアルATAディスクを接続するために、7ピンのシリアルATAケーブルが必要です。シリアルATAケーブルの両端をマザーボード上のシリアルATAヘッダーとディスクに接続します。他の従来のディスクのように、電源ケーブルも接続します。ジャンパー不要であることに注意してください。マスターがスレーブディスクを定義するためにジャンパーを設定する必要はありません。シリアルATAハードディスクをシリアルATAポートにインストールするときは、自動的にPort SATA1に接続する方が最初に起動するブートデバイスになります。ホットプラグ機能をサポートしていないことに注意してください。



## ハードディスクの設定を調整する

オリジナルの平行IDE一式を除いて、本マザーボードは最新のシリアルATAハードディスクをサポートしています。インストールをした後で、最新のインストールしたばかりのシリアルATAハードディスクがOS上に見つからないなら、BIOS設定に問題があるかもしれません。正しく機能するようにBIOS設定を調整できます。

ハードディスクを正しくインストールした後で、調整用のBIOS設定画面に進んでください。好みのモードを選択するために“**Integrated Peripherals → OnChip IDE Device → On-Chip Serial ATA**”の順に押してください。オリジナル設定の変更を希望されないのであれば、デフォルトは自動になっています。

The screenshot shows the Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility interface. The main menu is displayed with the following options:

- Standard CMOS Features
- Advanced BIOS Features
- Advanced Chipset Features
- Integrated Peripherals**
- Power
- PnP/PCI
- Silder
- Frequ

The 'Integrated Peripherals' menu is expanded, showing the following options:

- OnChip IDE Device (Press Enter)
- SuperIO Device (Press Enter)
- USB Controller (Enabled)
- USB 2.0 Controller (Enabled)
- USB Keyboard Support (Auto)
- Onboard Audio Codec (Enabled)
- Onboard LAN Control (Enabled)

The 'OnChip IDE Device' menu is expanded, showing the following options:

- IDE HDD Block Mode (Enabled)
- On-Chip Primary PCI IDE (Enabled)
- IDE Primary Master PIO (Auto)
- IDE Primary Slave PIO (Auto)
- IDE Primary Master UDMA (Auto)
- IDE Primary Slave UDMA (Auto)
- On-Chip Secondary PCI IDE (Enabled)
- IDE Secondary Master PIO (Auto)
- IDE Secondary Slave PIO (Auto)
- IDE Secondary Master UDMA (Auto)
- IDE Secondary Slave UDMA (Auto)

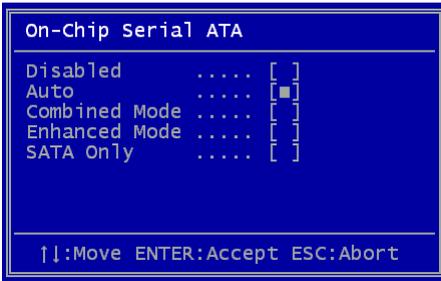
The 'On-Chip Serial ATA Setting' menu is expanded, showing the following options:

- On-Chip Serial ATA (Auto)
- × PATA IDE Mode (Primary)
- SATA Port (SATA3, SATA4 Secondary)

The 'Item Help' section provides detailed information for the selected option:

[Disabled]: Disabled SATA Controller.  
[Auto]: Auto arrange by BIOS.  
[Combined Model]: PATA and SATA are combined. Max. of 2 IDE drives in each channel.  
[Enhanced Model]: Enable both SATA and PATA. Max. of 6 IDE drives are supported.  
[SATA Only]: SATA is operating in legacy mode.

Navigation keys are listed at the bottom: ↑↓←→: Move, Enter: Select, +/-/PU/PD: Value, F10: Save, ESC: Exit, F1: General Help, F2: Item Help, F5: Previous Values, F6: Setup Defaults, F7: Turbo Defaults.



デフォルト設定の変更を望まれるなら、選択リストのためにEnterを押します：

**Disabled (無効)：**従来のIDEハードディスクだけがシステムにインストールされているならこの項目を選択できます。この項目を無効にすると、POSTの最中にシリアルATAハードディスクの検知をキャンセルします。論理的にはブートの時間がわずかに早まりますが、後になってシリアルATAハードディスクを使用する

ときにはこの設定を再調整することを忘れないで下さい。

**Auto (自動)：**これが本マザーボードの出荷時のデフォルト設定です。基本的には、システムが正しく機能していれば、変更する必要はありません。システムはプライマリーとしてPATA (IDE)を自動的に認識します。

**重要：**6つのハードディスクが全てインストールされた状態でWindows98/MEを使用するときは、Autoモードが正しく機能しないことをご理解ください。Windows98/MEは全てのハードディスクを認識するEnhanced Mode (拡張モード)を起動させることができないからです。

**Combined Mode (統合モード)：**従来のIDEハードディスクとシリアルATAハードディスクを同時にインストールするには、このモードを選択します。このモードでは、最初にブートするデバイスとしてIDEハードディスクかシリアルATAハードディスクをランダムに選択できます。しかしマッピングでは、IDEがATAと共に存在することに注意してください。つまりシリアルチャンネルの一つが占有され、シリアルチャンネルが一つしか残らなくなるという意味です。PATAモードがプライマリーとして設定されると、SATA3とSATA4はセカンダリーになります。PATAモードがセカンダリーに設定されるとSATA1とSATA2がプライマリーになります。

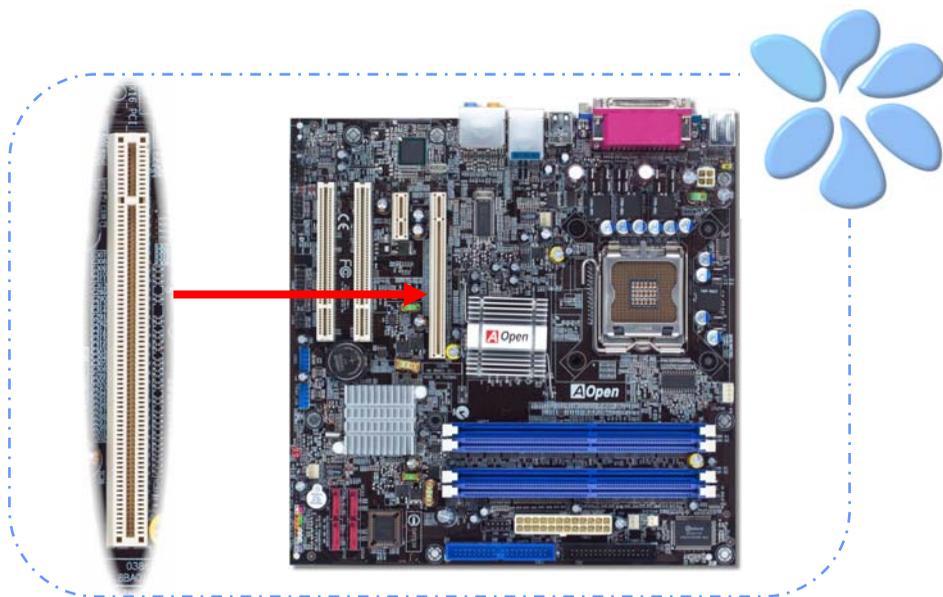
**Enhanced Mode (拡張モード)：**最新のOS(例：Windows XP, Windows.NET Server)をお使いであれば、Enhanced Modeを選択されるよう強くお勧めします。このモードではシステムは6つのデバイス全て(従来型IDE x 2, シリアルATA x 4)をしっかり認識し、正しく機能します。しかし、PATAモードはこのモードではプライマリーに設定されることに注意してください。

**重要：**ラボでの実用実験によれば、Windows2000のOSの元でこのモードが設定されているときには、目立った問題やミスはありませんが、Intelは推奨していません。

**SATA Only:**シリアルATAハードディスクをインストールするときのみ、このモードを選択できます。

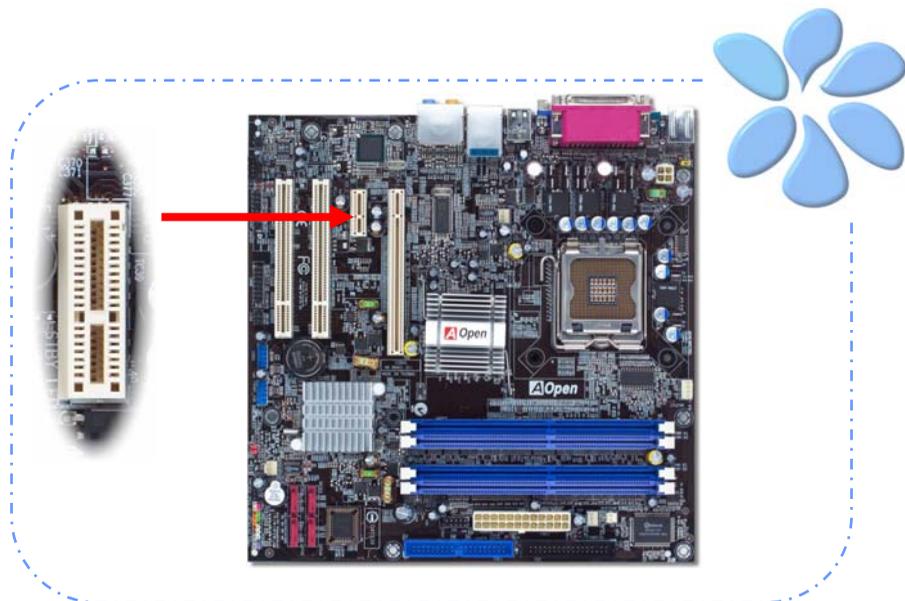
## PCI Express x 16グラフィックススロットを接続する

i915Gm-IE / i915Gm-I はPCI Express x 16グラフィックススロットを提供します。これはマザーボード上に最新のPCI Express x 16仕様を持つ白色のスロットです。PCI Express x 16は高品質の3Dグラフィックスをターゲットにしたバス・インターフェイスです。従来は、AGPが8X AGP用の66MHzクロックの最盛期と後退期の両方で使用され、データ転送率は2.1GB/sに達しました。現在PCI Express x 16はさらに早いデータ転送率へと進歩し、8.0GB/s (250MB/s x 16 x 2)までにアップグレードされました。PCI Express x 16 スロットは自動的にPCI Express x 16グラフィックスや、多重化Intel DVO出力を認識します。これにはPCI Express x 16 グラフィックスやADD2 (AGP Digital Display 2)カードなど、どのカードが挿入されているかによります。このスロットに装備されている ADD2カードと合わせて、多重化Intel DVO出力はデジタルディスプレイやTV-OUT機能のために高速なデジタル接続を提供します。



## PCI Express x 1 スロットを接続する

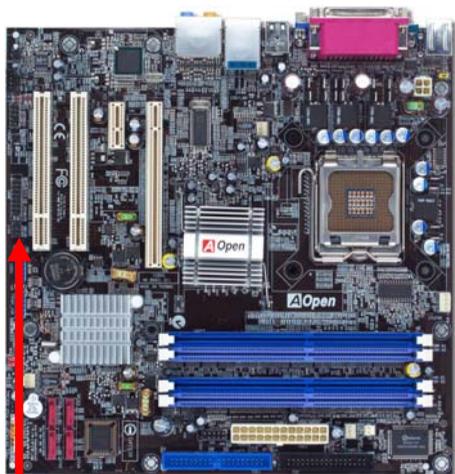
本マザーボードはPCI Express x 1 スロットを一つ提供しています。これはPCI Express x 16 と従来のPCIスロットの間に位置します。現在と明日のプロセッサと同調するために、PCI Express x 1 はより広域なI/Oバンド幅を提供します。転送データ率は250MB/sを達成しました。これは従来のPCI 2.2のデータ転送率のほぼ2倍に迫っています。好みに応じてどのようなPCI Express x 1 デバイスでもスロットにインストールできます。



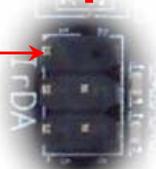
## IrDAを接続する

IrDAコネクタはワイヤレス赤外線モジュールをサポートするように設定できます。このモジュールとLaplink、Windows Direct Cable Connectionのようなアプリケーションを使って、ユーザーはファイルをラップトップ、ノートパソコン、PDA装置やプリンターに転送できます。このコネクタは HPSIR (115.2Kbps, 2 meters)とASK-IR (56Kbps)の両方をサポートしています。

赤外線モジュールをIrDAコネクタにインストールし、BIOS設定のUARモードから赤外線機能を有効にすると、この機能を使用できます。IrDAモジュールを差し込むときは、正しい向きに差し込んでいることを確認して下さい。



ピン 1



	1		
NC			KEY
+5V			GND
IR_TX			IR_RX

IrDAコネクタ



## 10/100/1000Mbps LANをサポート(i915Gm-IE のみ1000Mbps をサポート)

ボード上のギガサイズの強度のLANコントローラーについては、本マザーボードはオフィスと家庭の用途のために10/100/1000Mbps (i915Gm-I用は10/100Mbps) Ethernetを提供しています。Ethernet RJ45コネクタはUSBコネクタの上部に位置しています。右側のLEDはリンクモードを示していて、ネットワークとリンクされていると黄色に点灯します。左側のLEDは転送モードを示していて、データが100Mbps (10Mbpsだと点灯しない)で転送されていると緑に点灯します。しかしギガビットモードで転送されているとオレンジに点灯します。この機能を有効、無効にするにはBIOS を通して調整してください。LANの起動機能を有効にするには、BIOSの“Power Management Setup”セクションで“Wake on PCI Card”を有効にセットしなければなりません。



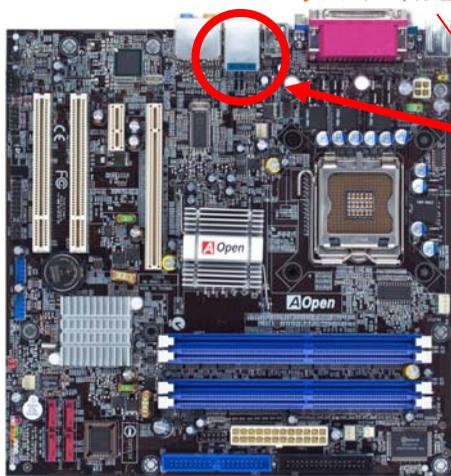
速度 LED (左)

緑 100Mbps

オレンジ ギガビットモード

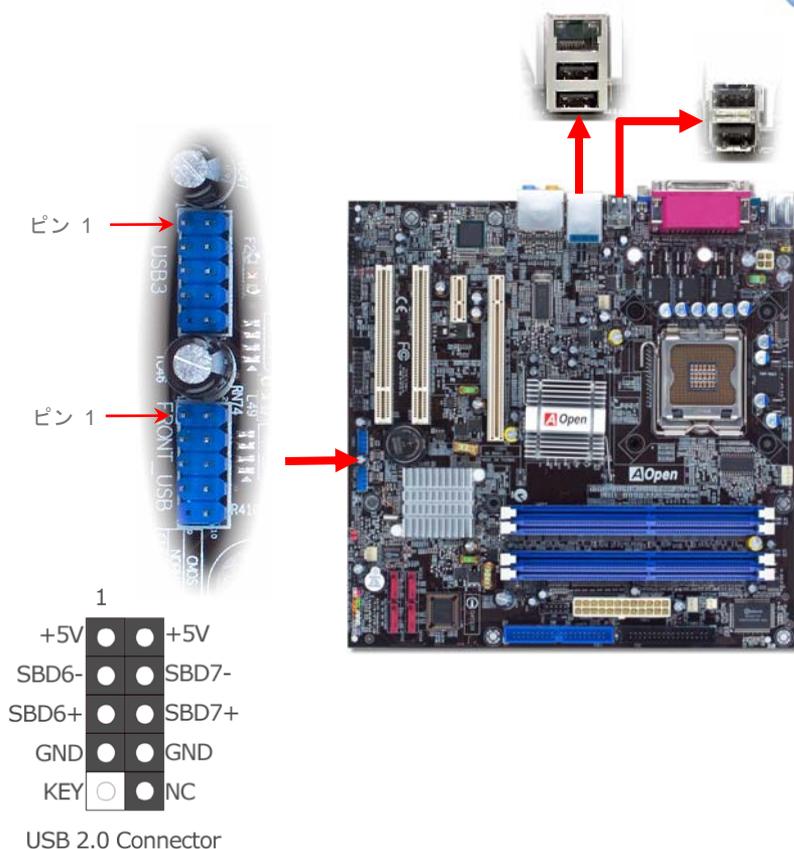
ACT LED (右)

黄色



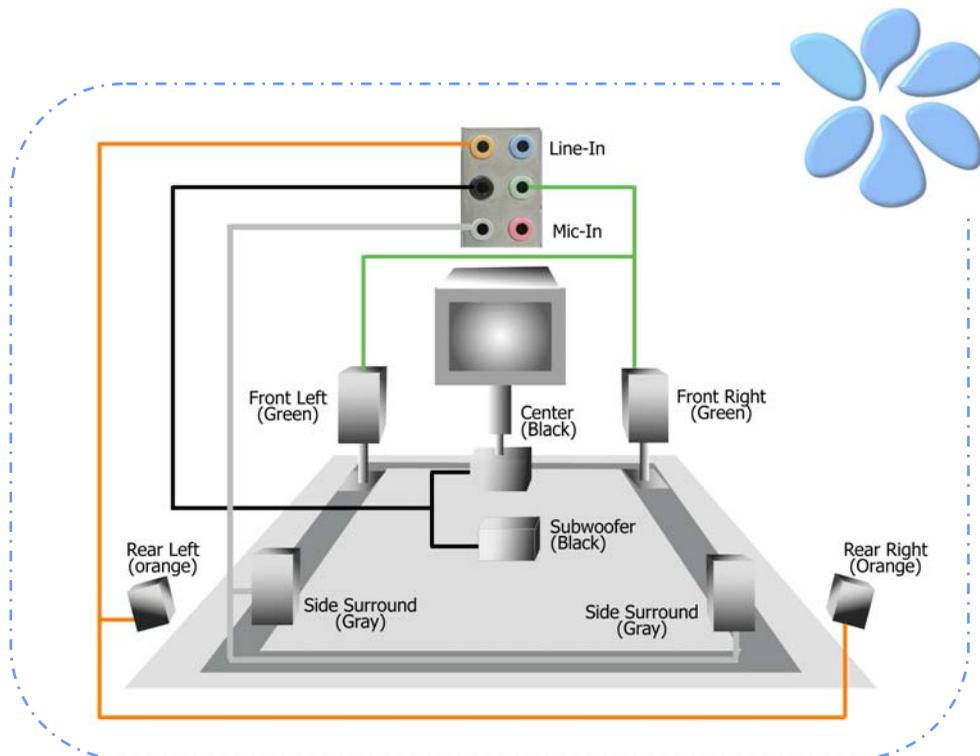
## USB2.0を接続する

本マザーボードはマウス、キーボード、モデム、プリンターなどのUSB装置に接続できる  
よう8つのUSB 2.0ポートを備えています。後部パネルにはポートが4つあります。前面  
USB コネクターをUSB モジュールやケースの前面パネルに接続するために適切なケーブ  
ルを使えます。



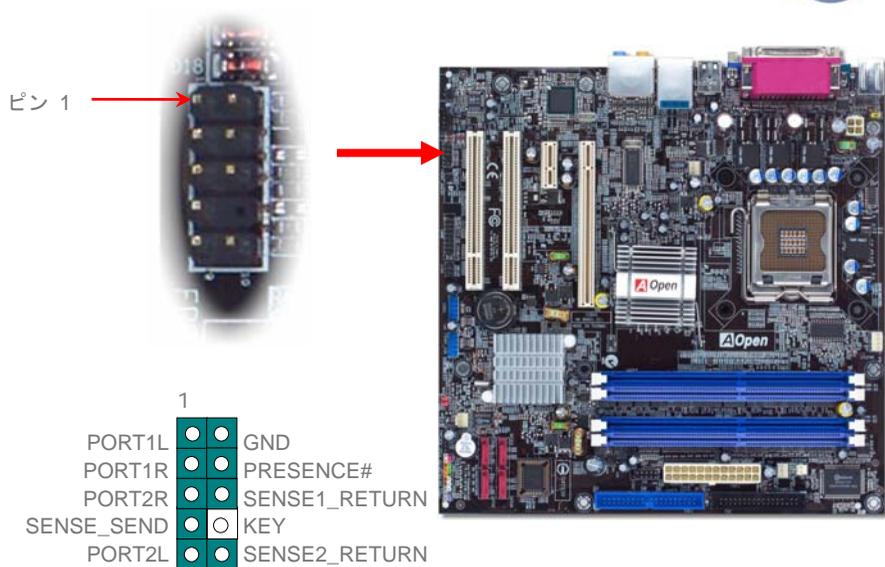
## スーパー7.1チャンネルオーディオ効果

本マザーボードにはALC880 CODECが付いており、音響効果において高品質な最新の7.1チャンネルをサポートしています。これによって全く新しいオーディオ体験ができるでしょう。本マザーボードは以下に示される7.1チャンネルを提供しています。図は7.1チャンネルサウンドトラックの全てのスピーカーの位置を示しています。前面スピーカーのプラグを緑の“Speaker out (スピーカー出力)”ポートに、後部のサラウンドスピーカーをオレンジのポートに、側面のサラウンドスピーカーを灰色のポートに、中央とサブウーハースピーカーの両方を後部パネルの黒色のポートに接続してください。



## 前面オーディオを接続する

もしケースの前面パネルにオーディオポートが付いていれば、このコネクタを通してオンボードオーディオを前面パネルに接続できます。



1

PORT1L	● ●	GND
PORT1R	● ●	PRESENCE#
PORT2R	● ●	SENSE1_RETURN
SENSE_SEND	● ○	KEY
PORT2L	● ●	SENSE2_RETURN

前面オーディオコネクター

## ゲームポートを接続する

本マザーボードにはゲームポート(Joystick-Midi)が付いており、どのMIDI装置やジョイスティックにも接続できます。この機能を使用するためには、ジョイスティックモジュールが必要で、マザーボードのこのポートにゲームポートを接続します。



ピン1



	1	2			
+5V	●	●	+5V		
JAB1	●	●	JBB1		
JACX	●	●	JBCX		
GND	●	●	MIDI_TXD		
GND	●	●	JBCY		
JACY	●	●	JBB2		
JAB2	●	●	MIDI_RXD		
+5V	●	○	KEY		
	15	16			

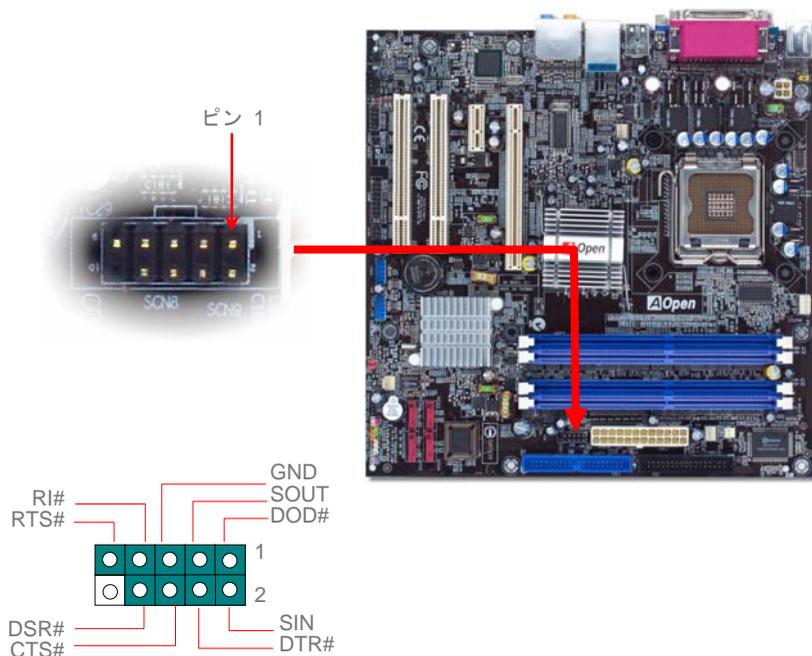
Game Port Connector



(オプション用ユーザーアップグレード)

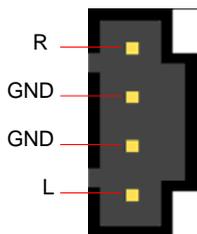
## COM2を接続する

本マザーボードはシリアルポートを2つ提供しています。一つは後部パネルコネクタで、他方は左側のEPS 電源コネクタです。正しいケーブルを使ってケースの後部パネルと接続できます。



## CD\_INを接続する

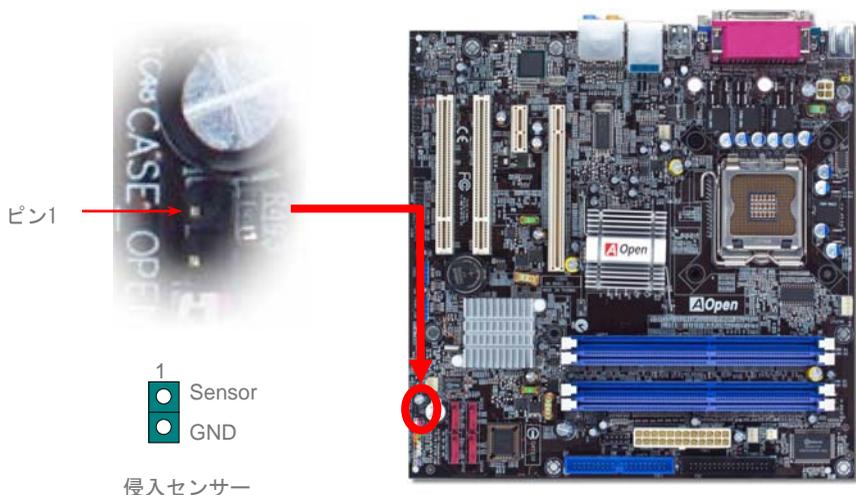
このコネクタはオンボードサウンドのために、CDROMやDVDドライブからCDオーディオケーブルに接続するよう設計されています。



CD-INコネクタ

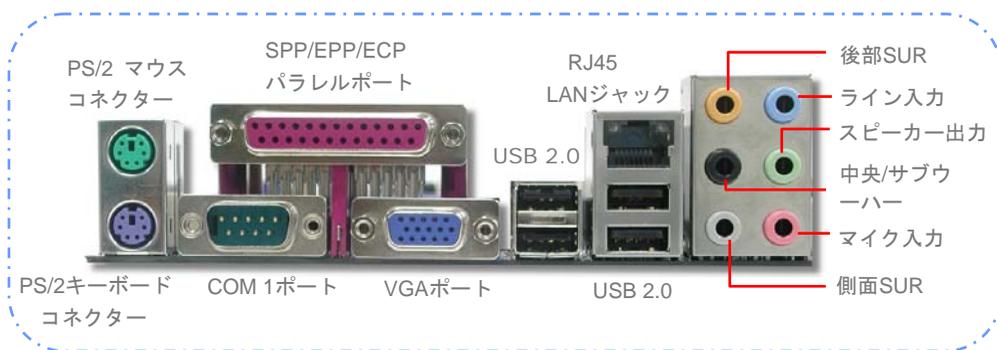
## Case Openを接続する

“CASE OPEN”ヘッダーはケースへの侵入監視機能を提供しています。この機能を実行させるには、システムBIOSの中でそれを有効にし、このヘッダーをケースの中のセンサーに接続しなければなりません。センサーが光や、ケースが開けられて誘発させられると、システムはビープ音で知らせます。この便利な機能は先進のケースのみに適用できることをお知らせします。余分なセンサーを購入し、ケースに接続し、この機能を十分にお使いください。



## 色分けされた後部パネル

オンボードのI/OデバイスにはPS/2キーボード、PS/2マウス、RJ-45 LANコネクタ、COM1、VGAポート、プリンター、USB、Azaliaサウンドとゲームポートがあります。以下の写真はケースの後部パネルから撮ったものです。



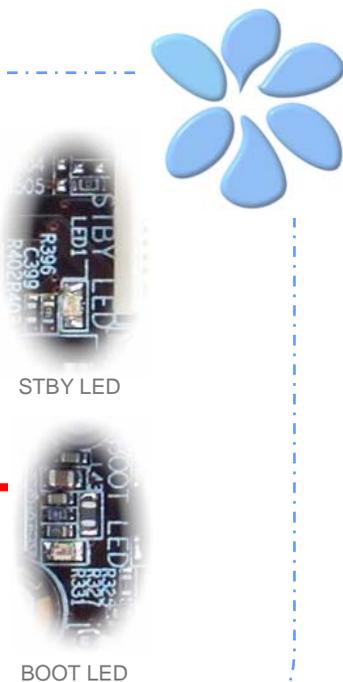
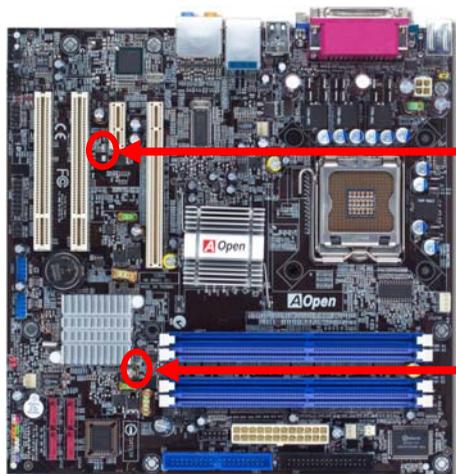
<b><u>PS/2 キーボード :</u></b>	PS/2プラグを使用する標準的なキーボード
<b><u>PS/2 マウス :</u></b>	PS/2プラグを使用するPCマウス
<b><u>パラレルポート :</u></b>	SPP/ECP/EPPプリンターと接続
<b><u>COM1 ポート :</u></b> 接続	ポインティングデバイス、モデム、他のシリアルデバイスと
<b><u>RJ-45 LAN ポート :</u></b>	家庭用、事務所用Ethernetと接続
<b><u>VGA コネクタ :</u></b>	PCモニターと接続
<b><u>USB ポート :</u></b>	USBデバイスとの接続用
<b><u>側面 SUR :</u></b>	側面サラウンドスピーカー用
<b><u>中央/サブウーハー :</u></b>	中央、サブウーハースピーカー用
<b><u>後部SUR :</u></b>	後部スピーカー用
<b><u>スピーカー出力 :</u></b>	外部スピーカー、イヤフォン、アンプ用
<b><u>ライン入力 :</u></b>	CDやテープなどのシグナルソースから
<b><u>マイク入力 :</u></b>	マイク用

## LED表示

LED表示にはブートLEDとスタンバイLEDが含まれており、AOpenは使い勝手のよいシステム情報を提供することを目標に設計しました。

**STBY LED (スタンバイLED)** は電源がマザーボードに提供されているときに点灯します。システム電源の状態を確認するために便利な表示です。確認できる状態としては、電源のオン・オフ、スタンバイモードやサスペンドからRAMモードの間のRAM電源状態などがあります。

**BOOT LED (ブートLED)** はシステムがオンの時と、システムがPOST (パワーオン・セルフテスト) の時に点滅します。POSTが全て正常であることを診断しブートが終了した後で、LEDは点灯になります。POSTの間に発生したエラーを警告するときはその後も点滅しています。



## 3.4 ジャンパー設定

JP28キーボード /  
マウス起動ジャンパー

本マザーボードはPS2キーボード / マウス起動ジャンパー機能を提供しています。

JP28 KB/マウス起動  
ジャンパー



無効 (デフォルト)



有効

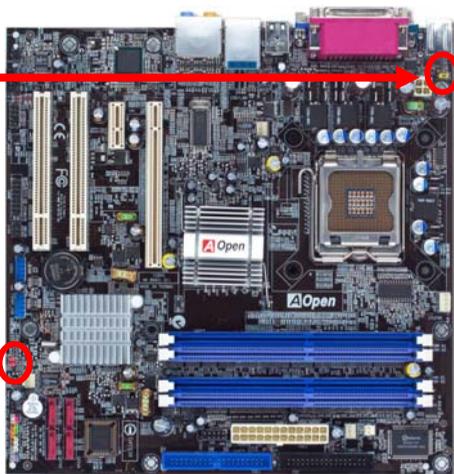
JP14 クリア-CMOSジャンパー



通常  
フォルト)



(デ  
クリア-CMOS



システムのデフォルト設定を回復することによってCMOSをクリアできます。CMOSをクリアするために、以下の手順に従ってください。

1. システムの電源を切り、AC電源を抜く。
2. PWR3コネクタからATX電源ケーブルを外す。
3. JP14を確認し、ピン2-3を、3秒間短絡する。
4. ピンの1と2を短絡することで、JP14を通常の設定に戻す。
5. ATX電源ケーブルを元のPWR3コネクタに接続する。

JP14 クリア-  
CMOSデータ

## 第4章 特別な機能とユーティリティー

### SilentTek – ノイズよさらば!



CPUのクロックが急速に高速になると、それに比例して高熱とシステム温度を避けられません。しかし、この熱問題の対処の仕方としては、マシンをできる限り冷ましてくれることを期待しながら、大切なシステムを保護するために次々にファンを増設することです。

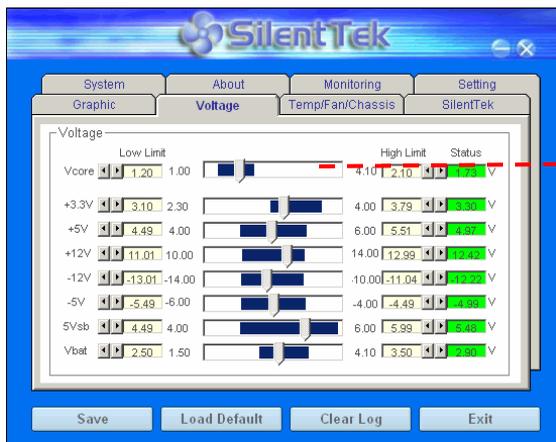
しかし同時に、PCを使用中にこれらのシステムファン、電源ファン、VGAファンの不快なノイズにひどく影響を受けるユーザーがおられることと思います。実のところ、ほとんどの場合そうした高速でファンを動かす必要はありません。それとは反対に、適切な時間と速度でファンを動かすと、ノイズを減少させるだけでなく、システムが必要とする最小の電力を消費することを発見しました。エネルギー資源の過剰消費を避けられるのです。

ここにAOpenマザーボードは新しい総合的なソリューションとして、システムを静かにできるSilentTekを提供できるのは光栄です。ハードウェア回路、BIOS、Windowsのユーティリティーをひとまとめにするために、SilentTekはノイズ、システム・パフォーマンス、安定性のパーフェクトなバランスを提供するユーザーになじみやすいインターフェイスの中で“Hardware-Status Monitoring”、“Overheat Warning”、“Fan Speed Control”を統合しました。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility				Item Help
SilentTek Control				Menu Level ▶▶
GPUFAN	Boot Speed	70%	2800 RPM	This is initial fan speed when power-on. "50%" means half of full speed, "100%" means full speed.  Note: During POST stage, the fan will be controlled by the mode you specified in the item "Fan Mode".
SYSFAN1	Boot Speed	70%	---- RPM	
SYSFAN2	Boot Speed	70%	None	
PWRFAN	Boot Speed	70%	None	
Fan Mode		Full Speed		
x GPUFAN	Fixed Speed	100%	4000 RPM	
x SYSFAN1	Fixed Speed	100%	---- RPM	
x SYSFAN2	Fixed Speed	100%	None	
x PWRFAN	Fixed Speed	100%	None	
x CPU Set	Temp.	39° C		
x SYS Set	Temp.	39° C		
x PWR Set	Temp.	39° C		
GPUFAN	OS Speed	100%	4000 RPM	
SYSFAN1	OS Speed	100%	---- RPM	
SYSFAN2	OS Speed	100%	None	
PWRFAN	OS Speed	100%	None	

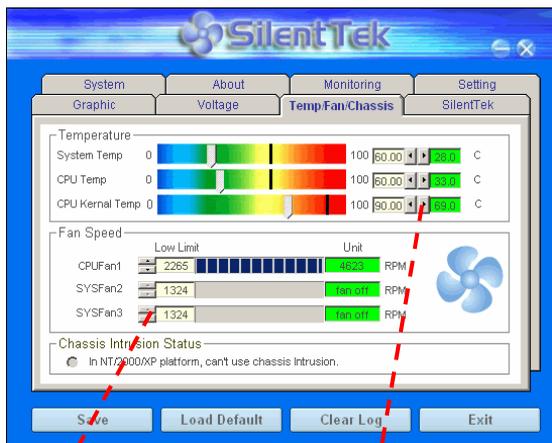
↑↓←→:Move Enter:Select +/-/PU/PD=Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help  
F2:Item Help F5:Previous Values F6:Setup Defaults F7:Turbo Defaults

この最初の図は電圧状態のページです。すべての電圧の現在の状況が分かり、推測される警告レベルの限界を設定できます。



自分のシステムの電圧をこの表示バーから確認できます。

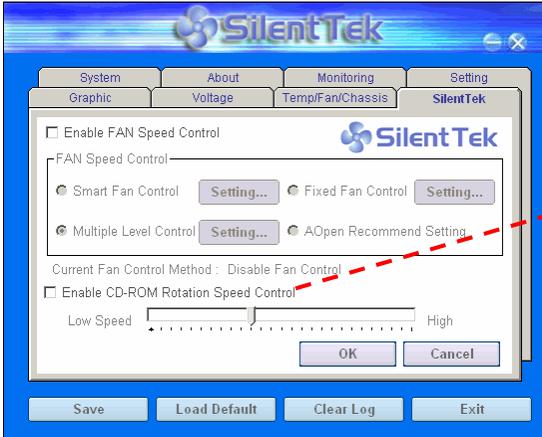
“Temp/Fan/Case”ページでは、CPUの現在の温度とケース内部の熱が分かります。またファンが適切に動いているかどうかの確認もできます。



もちろん、ファンのために最下限をデフォルトに設定してもかまいません。SilentTekはファンがこの特定されたスピードより遅く回転するときには、アラームと共に警告のためのメッセージボックスをポップアップします。

CPU、システム温度の際上限をデフォルトとして設定してもかまいません。SilentTekは特定の限界よりも温度が越えるときに、アラームと共に警告のためのメッセージボックスをポップアップします。

続くページはこのユーティリティの中で最も重要な部分です。このページの中のオプションを使って、特定のファンの回転速度を制御できます。



CD-ROM Rotation Speed Control (CD-ROM回転速度制御)：CD-ROM Rotation Speed Controlを有効にすることにより、CD-ROMの回転速度を調整できます。速度をハイレベルに設定すると、CD-ROMは最高速で動き、値を低速に設定すると、基本的に求められている速度で動きます。

**Smart FAN Control:** これがSilentTekのデフォルト設定で、そのような種類のコンピューターケースにも使用できます。AOpenで開発されたアルゴリズムにより、ファンの速度がCPUのパラメーターとその周囲の温度要因により自動的に調整されます。ご利用に際して使いやすく、トラブルがありません。

**Fixed FAN Control:** この設定の元では、作動しているときに望んでいるファンの速度が固定で設定されています。

**Multiple Level Controls:** これが最も融通の効く設定で、ファンの速度を温度との関係で設定します。自分にとって一番合う設定が見つかるかもしれません。

**AOpen Recommend Setting (AOpenが推奨する設定)：** この設定はAOpenケースのために特別に設計されました。実験室での一連の試験では、CPUの稼動状態と温度の範囲内でノイズレベルを減少される最適なファンの速度を決めるために、現実のシナリオのもとで行われました。多くの場合、CPUが十分に活用されていないときには、ファンは静止していました。

 **重要：** 一般に販売されている数百種類ものファンのために、回転速度を調整するとき不正なことが起こるかもしれません。しかし基準値内であり、システムに問題を起こすようなことはありませんのでご安心ください。

## 他の便利な機能

R&Dチームの優れた設計能力により、AOpenは下記のような弊社製品に付属する多様で強力、そして手ごろな機能に自信をしております。そうした機能についてさらに学ばれるよう、私たちのテクニカルウェブサイトを訪問なさってください。

<http://english.aopen.com.tw/tech/techinside>



 **DieHard BIOS Lite**

 **Gigabit LAN**

 **Serial ATA**

 **V4 Power Engine**

 **EzWin Flash**

**DDR400**

 **Dual Channel**

 **Hyper-Threading**

 **EzInstall**

 **Vivid BIOS**

## 第5章 BIOSを設定する

### 紹介

システムのパラメーターはBIOS設定メニューに入って調整できます。このメニューではシステムパラメーターを設定したり、128バイトのCMOSエリア（通常はRTCチップかメインチップセットの中）に構成を保存できます。

マザーボードのFlash ROMがインストールされているPhoenix-Award BIOS™は業界標準BIOSのカスタムバージョンです。BIOSはハードディスクドライブ、シリアル、パラレルポートなどの標準的なデバイスのための重要な低層レベルでのサポートを提供しています。

AOpenのR&Dエンジニアリングチームは本マザーボードのほとんどのBIOS設定を最適化しました。しかし、BIOSのデフォルト設定のあるものはチップセットで制御されている部分を微調整できませんでした。そのため、この章では幾つかの設定を調整する手助けをすることを意図しています。

BIOS設定メニューに入るため、画面にPOST（パワーオン・セルフテスト）が表示されると<Del>キーを押してください。

 **重要：** BIOSコードはマザーボード上で最も頻繁に変更される部分なので、このマニュアルに含まれるBIOS情報はお手元のマザーボードに付属するBIOSバージョンとは異なる場合があります。

## Phoenix-Award™ BIOS設定プログラムの使い方

一般的に、選択したい項目は矢印キーを使って強調し、選択のためには<Enter>キーを押します。値を変更するには<Page Up>と<Page Down>キーを使います。Phoenix-Award™ BIOS設定プログラムを終了するには<Esc>キーを押します。以下の表はPhoenix-Award™ BIOS設定プログラムの中でキーボードの使い方の詳細を示しています。別の方法としては、詳細説明や、さらに協力的な機能とBIOSの発展的な設定を入手するためにAOpenの最新版のWinBIOSユーティリティをインストールされるよう強くお勧めします。

キー	説明
Page Up か +	設定を次の値に変更するか、値を増やす。
Page Down か -	設定を前の値に変更するか、値を減らす。
Enter	項目を選択する。
Esc	メインメニュー：変更を保存せずに終了。 サブメニュー：現在のメニューからメインメニューへ戻る。
↑	前の項目を強調する。
↓	次の項目を強調する。
←	バーをメニューの左端に移動させる。
→	バーをメニューの右端に移動させる。
F6	CMOSからセットアップデフォルト設定値をロードする。
F7	CMOSからターボ設定値をロードする。
F10	変更された設定を保存し、セットアッププログラムを終了する。

## BIOS設定への入り方

ジャンパー設定を終え、ケーブルを接続してから、電源を投入しBIOS設定に入ることができます。POST（パワーオン・セルフテスト）の間に<Del>キーを押し、推奨最適パフォーマンスのために"Load Setup Defaults"を選択してください。



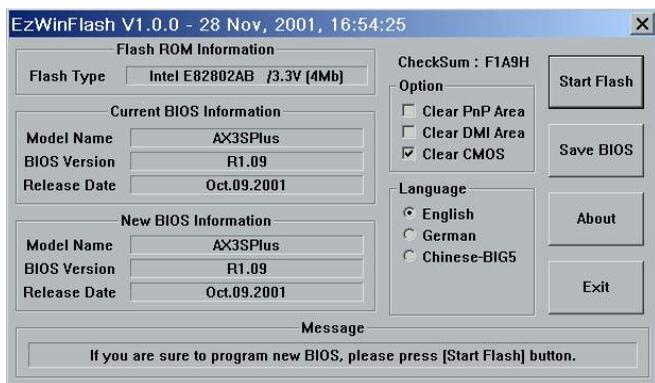
**警告：** ご自分のシステムコンポーネント (CPU, SDRAM, HDD など) がターボ設定に十分であることが確かでない限り、“Load Turbo Defaults” を使用しないでください。

## Windows環境でのBIOSアップグレード



AOpenの優れたR&D能力により、全く新しいBIOSフラッシュウィザード -EzWinFlash- をお届けします。ユーザーの便宜を視野に入れ、EzWinFlashはBIOSバイナリコードとフラッシュモジュールの両方を統合しました。そのためユーザーがすることはウェブからダウンロードしたユーティリティをクリックするだけです。後は自動的にフラッシュのプロセスを完了するのをお手伝いします。EzWinFlashはマザーボードを検知し、BIOSのバージョンを確認し、システムを起こりえる失敗から守ってくれます。さらに、EzWinFlashは皆さんがお使いのどのwindows環境でも機能できるように考慮されていますので、Windows 95/98、98SE/ME、NT4.0/2000、あるいはWindows XPをお使いでもかまいません。

同時に、一層ユーザーが扱いやすい動作環境を提供するため、AOpenのEzWinFlashはBIOS設定の変更をより容易にできるように多言語機能を持つよう設計されています。



**注意：** システムをアップデートするときにはBIOSフラッシュの失敗というリスクがあります。もしマザーボードが安定して機能しているのであれば、最新のBIOS更新版で修正しなければならないようなバグはありません。その場合はBIOSのアップグレードをされないようお勧めします。アップグレードを計画されているのであれば、起こりうる失敗を回避するために、手元のマザーボードの正確なBIOS更新版を持っていることをお確かめください。

**重要：** この BIOS の写真にあるモデル名は参照のためだけのものです。お手持ちのマザーボードと同一のモデルではないかもしれません。



以下のステップに従ってEzWinFlashでBIOSアップグレードの手順を完了できます。アップグレードを開始する前に、全てのアプリケーションを閉じておかれるよう強くお勧めします。

最新版のBIOSパッケージのZIPファイルをAOpen公式ウェブサイトからダウンロードしてください。(例：<http://english.aopen.com.tw/>)

ダウンロードしたBIOSパッケージ(例：WSGMAXII102.ZIP)をWindows環境の中で、WinZip(<http://www.winzip.com>)を使って解凍してください。

解凍されたファイルをフォルダーに保存してください。例：WSGMAXII102.EXE、WSGMAXII102.BIN

WSGMAXII102.EXEをダブルクリックします。するとEzWinFlashはマザーボードのモデル名とBIOSバージョンを検知します。BIOSが違っていれば、フラッシュのステップを続行することはできません。

メインメニューで言語を選択し、次にBIOSアップグレードの手順を開始するために[Start Flash]をクリックします。

EzWinFlashは全てのプロセスを自動的に完了します。ダイアログボックスが表示され、Windowsを再起動するよう促します。Windowsを再起動するために[YES]をクリックしてください。

BIOS設定画面に入るため、POSTの時点で<Del>キーを押します。“Load Setup Defaults”を選択し、次に“Save & Exit Setup”を選択すれば終了です。

フラッシュの過程で電源を切ったり、他のアプリケーションを実行したりしないよう強くお勧めします。



**警告：**新しいBIOSアップグレードはフラッシュしてしまうと元々のBIOS設定を恒久的に置き換えてしまいます。システムが通常通りに使用する前にBIOS設定を再構成する必要があります。



皆さんはPOST画面が古臭く、変わり映えしないのに辟易されたことはありませんか？それではPOST画面は堅苦しく、温かみがないという従来の考え方をやめてしましましょう。明るくてカラフルなPOST画面を体験するため、AOpenが新しく開発したVividBIOSをお見せしましょう！

初期のグラフィックPOST画面とは違い（全画面を占領し、POSTの間はテキストの情報で覆われていた）、AOpenのVividBIOSはグラフィックスとテキストを別々に扱い、POSTの間に同時に実行させます。この革新的な設計により、VividBIOSはPOST画面で重要な情報を漏らすことなく、皆さんを美しく、優美な256色画面へとお連れします。

加えて、BIOS ROMのスペースが限られていることも別の大きな問題です。従来のBIOSは全てスペースを消費し、圧縮できないBitmapを表示するだけですが、AOpenはBIOSを次世代に向けてかなり調整し、より小さなGIFフォーマットや動的GIFアニメーションを認識できるようにしました。



Vivid BIOSはOpen JukeBox CD Playerとも基本的な技術を共有しています。同じEzSkinユーザーリティーを使ってVividBIOS画面を変更したり、お好みのOpen JukeBoxスキンをダウンロードすることもできます。この小さなロゴがマザーボードのダウンロードページ



<http://english.aopen.com.tw/tech/ezskin/vivid.htm>のモデル名の横に表示されていれば、お手持ちのマザーボードがこの革新的な機能をサポートしていることの保証です！

## 第6章 ドライバーをインストールする



ドライバーやユーティリティのインストールはインストールウィザードやステップに従って繰り返し行う作業だとお考えかもしれませんが。それでは、EzInstallがどれほど“簡単に”それをやってのけるかに驚かれるかもしれません。ウィザードやステップはなく、皆さんにはただ一回クリックして頂くだけです。クリックしたら終わりです。EzInstallはインストールシーンを簡単にし、誰でも間違えずにできるようにしてくれます！

CDを入れると、AOpenの“ようこそ”ページと支社情報が出てきます。

まず、必要なドライバーのために左側のインストールドライバーのアイコンをクリックしてください。

次に、お好みのユーティリティのために右側のインストールユーティリティのアイコンをクリックしてください。

実質的にはこれだけです。しかしCDの内容をブラウズしたり、もっと情報を入手するためにReadmeを見たり、CDインストールシーンを終了したりできます。

クリックしてオンラインマニュアルをインストール

The screenshot shows the AOpen EzInstall Welcome screen. On the left side, there are four circular icons representing different options: a CD, a folder, a magnifying glass, and a document. On the right side, there is a 'Contact us' section with contact information for AOpen Computer GmbH, AOpen America Inc., AOpen Computer B.V., AOpen Japan Inc., and AOpen International Co., Ltd. The EzInstall logo is at the bottom right.

Callouts on the left side:

- ドライバー (Driver)
- ユーティリティ (Utility)
- CDの内容をブラウズ (Browse CD content)
- Readme
- Exit CD

Callout on the right side:

- AOpenの支社情報 (AOpen branch information)

## 6.1 ドライバーをインストールする

Install Driver（ドライバーをインストールする）というページから分かるように、EzInstallはマザーボードのために必要なものを拾い上げてくれました。皆さんがすることはただ“GO”をクリックするだけで、その後ステップはありません。リストに挙がっているドライバーの中で、灰色でチェックされているのは必要なドライバーで、皆さんが除外することはできません。赤色のチェックは今回必要でないなら無効にできるものです。



アイコンを押すと“Install Driver”ページが出ます。メインページに戻るために“Back”を押すこともできます。



一度“GO”をクリックするとEzInstallは自動的にインストール手順を実行してから、再起動ダイアログを出します。（ドライバーやユーティリティの中には再起動の部分をスキップするものもあります。）

## 6.2 ユーティリティをインストールする

Installing Utilities（ユーティリティをインストールする）はドライバーのインストールとほとんど同じです。AOpenはシステムを管理するために、たくさんの使いやすく強力なユーティリティを提供しています。数多くの素晴らしいユーティリティが列挙されていることがお分かりになるでしょう。皆さんにはただ“GO”をクリックして頂くだけで、あとは複雑なステップはなしにシステムにユーティリティがあつという間にインストールされます。



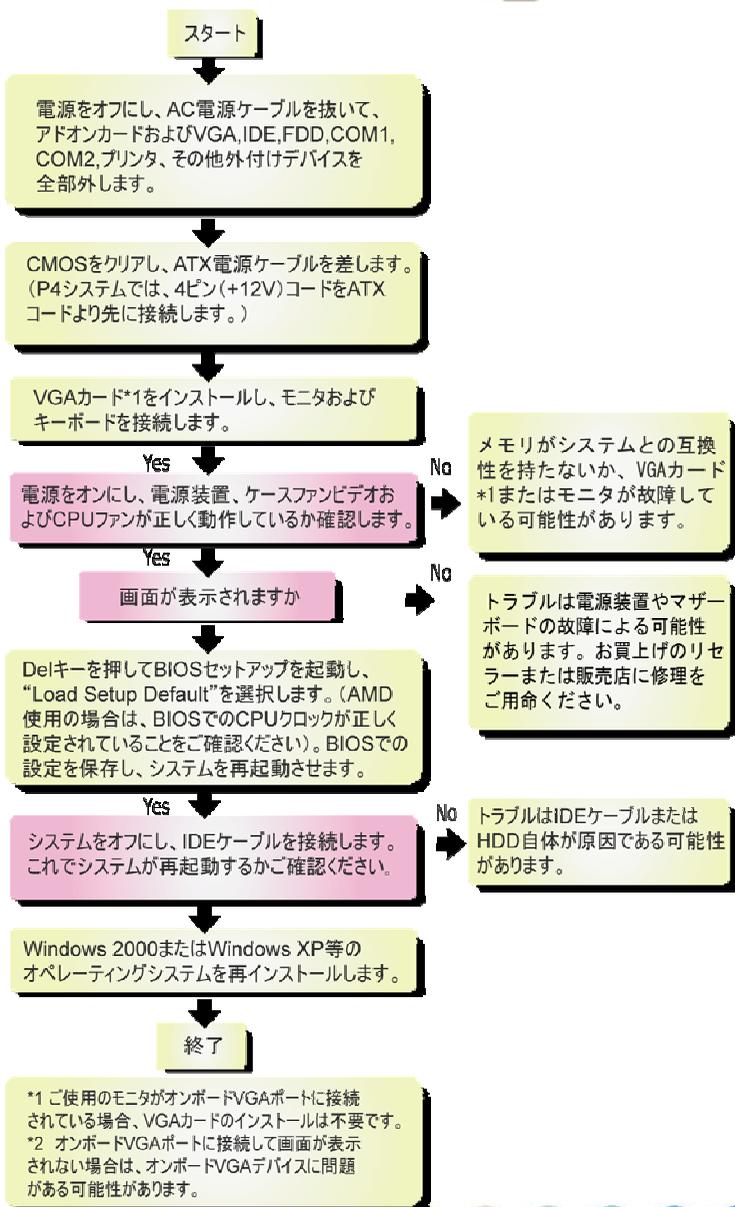
アイコンを押すと選択できるよう“Install Utilities”ページが出ます。メインページに戻るために“Back”を押すこともできます。



## 第7章 トラブルシューティング



# TroubleShooting



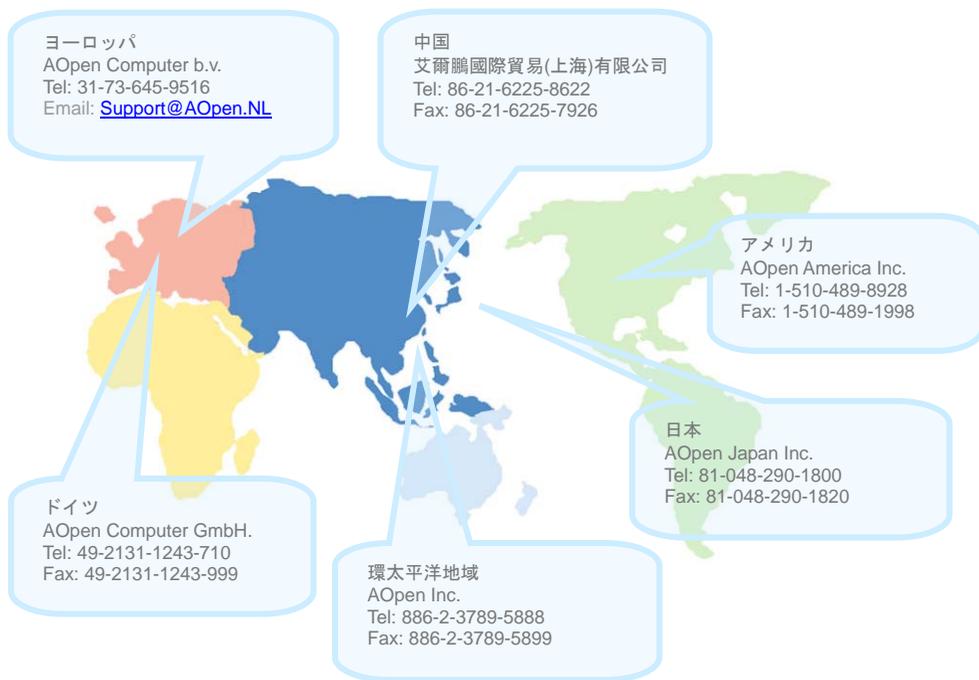
## 第8章 テクニカルサポート

お客様各位

この度はAOpen製品をお選びくださりありがとうございます。今後の良質なサービスを保証するClub AOpenのゴールド会員になるために<http://www.aopen.com>で登録して下さるようお勧めいたします。お客様各位への最良のサービスを維持できるよう、下記の手順に従い、皆様がお買い求めになった地域に従って、各地の支店からサービスをお受けになるようお願い致します。皆様のご協力によって、全てのお客様への効果的で最良のサービスを提供し続けてまいります。

ご理解に厚く感謝致します。

AOpenテクニカルサポートチーム



ヨーロッパ Email :

[Support@AOpen.NL](mailto:Support@AOpen.NL)

環太平洋地域 :

<http://www.aopen.com.tw/tech/default.htm>

中国 :

<http://www.aopen.com.cn/tech/default.htm>

ドイツ :

<http://www.aopencom.de/tech/default.htm>

アメリカ :

<http://usa.aopen.com/tech/default.htm>

日本 :

<http://www.aopen.co.jp/tech/default.htm>

## モデル名とBIOSバージョン

モデル名とBIOSバージョンはブートの最初の画面(POST画面)の上部左に現れます。

例えば：



i915Gm-IEはマザーボードのモデル名で、R1.02はBIOSバージョンです。

## マザーボードを登録する

AOpen製品をお選び下さりありがとうございます。Club AOpenのゴールド会員になるために、本マザーボードを <http://club.aopen.com.tw/productreg/> にてご登録ください。AOpenが高品質のサービスと優先度を保証するものです。スロットマシニングゲームに参加して、AOpenから賞を獲得するチャンスもあります。始める前に以下の情報を準備してください：モデル名、部品番号 (P/N)、シリアル番号(S/N)、購入日付です。部品番号とシリアル番号はバーコードラベルに印刷されています。このバーコードラベルはパッキングの外部かPCB のコンポーネント側にあります。例えば：



P/N: 91.88110.201は部品番号、S/N: 91949378KN73はシリアル番号です。

Phoenix-Award BIOS エラーメッセージ	
ビーブ音	メッセージ
1 回短く (ビーブ)	システムブートが正常
1 回長く - 1 回短く(ビーブ)	DRAM エラー
1 回長く - 2 回短く(ビーブ)	ディスプレイカードあるいはモニターの接続エラー
1 回長く - 3 回短く(ビーブ)	キーボードエラー
長い(ビーブ)が継続	DRAMが正しく装着されていない



# Technical Support

**オンラインマニュアル**：マニュアルをダウンロードするには、まずログオンに必要な言語を指定します。“Type”のディレクトリから“Manuals”を選んで、マニュアルデータベースにアクセスします。マニュアルおよびイーजीインストールガイドはAOpenボーナスパックCDにも収録されています。

<http://download.aopen.com.tw/downloads>

**テストレポート**：PC組立てには、互換性テストレポートからboard/card/deviceの部分をご覧になることをお勧めします。これで互換性に関するトラブルを解決できるかもしれません。

<http://www.aopen.co.jp/tech/report/default.htm>

**FAQ**：ユーザーがよく直面する問題やFAQ（よく尋ねられる質問）が列挙されています。ログオンに必要な言語を指定してから問題の解決方法を見てみます。

<http://club.aopen.com.tw/faq/>

**ソフトウェアのダウンロード**：ログオンして必要な言語を指定した後、“Type”のディレクトリからアップデートされた最新のBIOSまたはユーティリティ、ドライバをダウンロードしてみます。大半の場合、最近のバージョンのドライバやBIOSにより、バグや互換性の問題が解決されます。

<http://download.aopen.com.tw/downloads>

**eForum**：AOpen eForumは当社製品に関して他のユーザーと討論する場所で、ユーザーの問題が以前に取り上げられたか以後答えを得られる可能性があります。ログオンしてから“Multi-language”に必要な言語を指定します。

<http://club.aopen.com.tw/forum/>

**当社へのご連絡**：ご連絡に先立ち、システム設定の詳細情報およびエラー状況をご確認ください。パーツ番号、シリアル番号、BIOSバージョンも大変参考になります。

**販売店、リセラーへのご連絡**：当社は製品をリセラーおよびシステム設計会社を通して販売しております。ユーザーのシステム設定に関して熟知しており、お持ちの問題の解決方法または重要な参考情報が提供される可能性があります。